

熊本大学大学院生命科学研究部 法医学講座

教授 佐野利恵



令和6年4月1日付けで熊本大学大学院生命科学研究部法医学講座教授に就任した佐野利恵でございます。この場をお借りして皆様方に着任のご挨拶を申し上げます。

私は身近な人の異状死を複数経験し、大分大学医学科5年生の時に法医学への進路を決めました。その後、長らく群馬大学において研鑽を積んでおりましたが、20年ぶりに子供と共に再び九州の地を踏み、懐かしさと新鮮な気持ちで日々を過ごしております。

私はこれまで法医遺伝学を主とした研究を行い、主にABO式血液型遺伝子（以後ABO遺伝子）の転写調節研究に没頭してまいりました。ABO式血液型抗原は糖鎖であり、熱や死後変化に対して安定であることから、法医学においては個人識別に重要な指標として利用されます。ABO式血液型物質が血球系細胞や分泌腺細胞において特異的に発現することから、その基盤となるABO遺伝子の細胞特異的な転写調節機構を明らかにしました。また、血液型亜型や白血病などの血液疾患において血液型物質量が減少あるいは欠失する機序を解明してまいりました。今後はABO遺伝子とその周囲の遺伝子が協調して発現制御される機序、ABO遺伝子と疾患のなりやすさの関係、ABO遺伝



子の存在意義などを明らかにしていきたいと考えています。

また、法医解剖実務においては、より精度の高い死因究明を目指すことや、法医解剖で得られた情報の還元を心がけております。特に、法医解剖において死後画像検査を応

用することにより、裁判員制度において一般の方にはわかりやすく所見を説明することや、守秘義務や刑事捜査を阻害しない範囲での救急医等の臨床医とのカンファレンスを心掛けてきており、熊本においても実現したいと考えています。

今後、熊本県における医学生・医師を対象とした法医学の生涯教育をより進めたいと考えています。私でお役に立てることがあれば大変うれしく思いますので、お気軽にお声がけください。また、専門教育として、死後検体を用いた遺伝・分子生物学的解析に基づく死後診断法の開発とその病態解明を可能にし、成果を発信できる人材育成に取り組みたいと考えています。さらに、総合大学の利点を生かした他学部との連携から、共に問題解決を目指す法医学者を育成したいと考えております。教育や研究は「教える」だけでなく「共に育つ」ものと私は考えています。死因究明の推進には地域社会からの理解と支援が必要であり、今後も先生方をはじめとする多職種の専門家、地域住民との対話から共に問題点を抽出し、法医学実務に基づいた教育や研究を介して社会に広く貢献できるよう尽力いたしますので、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学会等への助成制度

● 学会・シンポジウム助成 ●

熊本で開催される医学生物学領域の学会・シンポジウムについて、肥後医育振興会が寄附受入の窓口になり、集まった寄附金を主催者に助成している。なお、肥後医育振興会は税額控除対象法人であるため、寄附者は税の優遇措置が受けられます。令和6年度は6つの学会が制度を利用しています。

● 研修会・教育セミナー等の助成 ●

熊本で開催される医学生物学領域の研修会・教育セミナー等に10万円を上限に助成。令和6年度は9件に助成予定です。